

クシテガニ (オオユビアカベンケイガニ) 岡山県：準絶滅危惧

十脚目

Parasesarma plicatum (Latreille)

環境省：該当なし

ベンケイガニ科

選定理由

生息条件が悪化し、産地・個体数ともに減少傾向にある。

存続を脅かす要因

河川開発（護岸工事）、用水路改修、川相変化、湿地開発（ヨシ原減少）、海岸開発（護岸工事、干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では岡山市児島湾と水門湾で記録がある。
県外では東京湾以南、九州まで分布する。

生息情報

甲長 22mm、甲は長方形で灰茶褐色、側縁は後方に向かって緩やかに狭まる。同属のユビアカベンケイガニ (*P. acis* Davie) に似るが、前側縁の眼窩外歯後方に僅かな窪みを持ち、鉗脚の可動指上面にある顆粒は 8～9 個（ユビアカベンケイガニは 24～26 個）と少ない点で区別される。鉗脚の先端は濃赤褐色で、掌部は橙色を呈する。大規模な内湾奥の良好な状態に保たれた河口部汽水域軟泥底において、ヨシ原内部や周辺の転石地などに見られ、同所的にシオマネキや、ヒロクチカノコ・クロヘナタリなどの貝類が産する場合が多い。水門湾では個体数は少なく、山西（1996）の報告以後は見出されていない。



文献番号 140, 157, 160

(福田 宏)

オオヨコナガピンノ

岡山県：準絶滅危惧

十脚目

Tritodynamia rathbuni Shen

環境省：該当なし

カクレガニ科

選定理由

生息密度が低く希少で、生息地が局限され、かつ、特殊な環境条件を必要としている。

存続を脅かす要因

海岸開発（干潟減少、干拓、埋立）、水質汚濁、産地局限

分布状況

県内では瀬戸内市牛窓町付近で記録されている。近隣の香川県小豆郡土庄町中ノ島でも得られている。

県外では東京湾、相模湾、三河湾、伊勢湾、瀬戸内海、福岡県、有明海、熊本県天草、鹿児島県から知られている。

生息情報

甲長 20mm、甲は左右に細長く引き伸ばされた長方形で、前後に湾曲し、茶褐色の不明瞭な斑紋を持つ。歩脚には長い毛が密生する。砂干潟に巣穴を掘って生息するツバサゴカイ (*Chaetopterus cautus* Marenzeller) やミサキギボシムシ (*Balanoglossus misakiensis* Kuwano) 等と共生するが、干潟環境の縮小と悪化に伴ってそれら宿主が危機的状況に陥りつつあるため、本種も危ぶまれている。過去に記録された産地の多くで再発見されなくなっていることも指摘されている。岡山県周辺でも近年減少傾向にある可能性が高い。



文献番号 114

(福田 宏)